
NEWSLETTER

日本保健物理学会

No.59 October, 2010

目次

日本保健物理学会	1
企画案内	1
保物セミナー2010のご案内	1
理事会報告	3
平成22年度第2回理事会議事録	3
企画委員会報告	5
平成22年度第2回企画委員会議事録	5
編集委員会報告	6
平成22年度第2回編集委員会議事録	6
国際対応委員会報告	7
活動報告	7
放射線防護標準化委員会	8
第30回幹事会	8
若手研究会	9
活動報告	9
学友会	10
活動報告	10
専門研究会報告	10
ラドンの防護基準に関する専門研究会	10
学会掲示板	10
日本保健物理学会討論会「ICRPレポート“Lung cancer risk from radon and progeny”を考える」に参加して... 10	
インターネットグループの活動	11
メーリングリストへのアドレス登録のお願い	12
保健物理学会 会員の皆様へのお知らせ	12

企画案内

保物セミナー2010のご案内

今年の保物セミナーは、平成22年10月25日(月)~26日(火)の2日間開催いたします。参加費は6,000円(10月20日迄の事前振込は5,000円)、ボイリング・ディスカッション参加費は6,000円です。参加申込は、下記URLより申込書を手後、必要事項を記載の上FAX.(06-6262-6525)にてお申し込み下さい。

http://homepage3.nifty.com/anshin-kagaku/hobutsu2010_program1.pdf

皆様のご参加をお待ちしております。

開催日：平成22年10月25日(月)~26日(火)

会場：大阪科学技術センター中小ホール(〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 Tel.06-6443-5320)

主催：保物セミナー2010実行委員会(日本保健物理学会、関西原子力懇談会、他3団体)

後援：文部科学省(交渉中)

協賛：NPO安心科学アカデミー、医療放射線防護連絡協議会、他12団体

【平成22年10月25日(月)プログラム】

1. 開会のあいさつ(13:00~13:10)
保物セミナー2010 実行委員会委員長 辻本 忠
2. 特別講演 1(13:10~14:00)
大阪科学技術センター電磁界調査研究委員会企画事業
座長：大阪大学名誉教授 山本 幸佳
演題：電離界と健康を考えるーWHOの評価からー
京都大学特定教授 宮越 順二
3. 特別講演 2(14:10~15:00)
座長：大阪大学大学院教授 飯田 敏行
演題：放射線障害防止法をめぐる最近の動向について
文部科学省科学技術・学術政策局 原子力安全課放射線規制室長 中矢 隆夫
4. テーマ 1 放射線管理に関する課題(15:00~16:30)
座長：福山大学教授 占部 逸正
演題 1：放射線被ばく線量管理の一元化について(30分)
日本原子力研究開発機構 柴田 徳思
演題 2：放射線管理者教育について(60分)
(1) 原子力発電所の放射線管理教育の現状
(前)放射線影響協会 三ヶ尻元彦
(2) 「放射線安全管理士」の資格認証制度について
NPO 安全安心科学アカデミー 辻本 忠
5. テーマ 2 最近の放射線関連製品情報(16:30~17:20)
座長：東京工業大学特任教授 佐久間 洋一
6. ボイリング・ディスカッション(17:30~19:30)
会場：大阪科学技術センター サイエンスクラブ
コーディネータ：(株)三築ツヅキ 北本 忠司、長瀬ランダウア(株) 飯田 泰二
ステージ1：自由な意見交換(オフレコで自由に意見を述べる)
ステージ2：参加者の懇談
ステージ3：お楽しみ(音楽会)(くじ引き) 等

【平成22年10月26日(火)プログラム】

7. 特別講演 3(9:00~10:00)
座長：神戸大学教授 小田 啓二
演題：原子力安全委員会の活動についてー就任の抱負ー
原子力安全委員会委員 代谷 誠治
8. テーマ 3 放射性廃棄物の諸問題(10:00~12:00)
座長：JAEA 核燃料サイクル工学研究所部長 古田 定昭
基調講演：最近の放射性廃棄物処分に関する指針の諸問題(40分)
原安協処分システム安全研究所所長 栢山 修
演題 1：RI 研究所等廃棄物に関する最近の検討内容(30分)
京都大学原子炉実験所教授 山名 元
演題 2：放射性廃棄物処分の安全規制と線量基準・リスクに関する様々な考え方 (20分)
京都大学原子炉実験所准教授 藤川 陽子
自由討論：(30分)
9. テーマ 4 保健物理から期待する放射線生物の研究(13:00~15:00)
座長：近畿大学原子力研究所教授 杉浦 紳之
基調講演：保健物理に必要な放射線影響研究(40分)
放射線影響協会/日本保健物理学会会長 金子 正人
演題 1：原子力安全研究推進事業への期待(15分)

藤田保健衛生大学客員教授 下 道國

演 題 2: 放射線生体影響を科学的に評価することが放射線防護の基礎(25分)

京都大学原子炉実験所教授 渡邊 正巳

演 題 3: 放射線リスク評価における疫学と生物学のギャップを超えるためのアプローチ(25分)

大分県立看護大学看護学部教授 甲斐 倫明

10. テーマ 4 原子力防災の今後と放射線防護上の課題を考える—JCO 事故後 10 年を振り返って—
保健物理学会企画行事(15:00~18:00)

座 長: 名古屋大学教授 大田 勝正

(1) 原子力防災の 10 年を振り返って(各 20~30 分)

① 防災の枠組み(体制)

原子力緊急時支援研修センター 金盛 正至

② 茨城県原子力防災訓練の実施状況

茨城県生活環境部 江幡 一弘

(2) 被ばく医療体制の整備

広島大学原爆放射線医科学研究所 神谷 研二

(3) 原子力緊急事態を巡る最近の動向(各 20~30 分)

① ICRP, IAEA 等の国際動向と防災指針の課題

JAEA 安全研究センター 本間 俊充

② 放射性物質散布テロ対応訓練(EMPIRE09)等に見る米国の緊急時対応

JAEA 核燃料サイクル工学研究所 遠藤 邦明

(4) 総合討論「原子力防災の今後と放射線防護上の課題を考える」(30分)

(5) その他: 保健物理学会理事会報告(30分)

「日本保健物理学会の法人化の取り組み状況について」

11. 閉会の挨拶(18:00~18:10)

保物セミナー2010 実行委員会副委員長 山本 幸佳

(藤田保健衛生大 南 一幸)

理 事 会 報 告

平成 22 年度 第 2 回 理事会 議事録

1. 日 時: 平成 22 年 7 月 9 日(金) 13:30~18:30

2. 場 所: 日本原子力技術協会「会議室」

3. 出席者

理 事: 金子(会長), 近江, 小佐古, 酒井, 村山, 鈴木, 服部, 猪俣

参 与: 河野, 藤原

委任出席: 杉浦, 太田, 百瀬, 安岡

4. 議事概要

(1) 前回議事録の確認

資料 2-1(メーリング理事会 H22-3~6 を含む)について、メールによる事前配布以降の修正点等について説明があり、承認された。

(2) 編集委員会活動状況報告について

資料 2-2-1 に基づき、服部理事より、学会誌出版状況、電子ジャーナルの進展状況、IF の具体的な取得への手続き、追悼文・巻頭言・Radiation Protection in the world の寄稿依頼状況について報告された。

学会誌の「情報のページ」の圧縮とニュースレターの活用、Radiation Protection in the world(日本語)の掲載位置、学会誌白紙の活用、学会誌背表紙の 2 色刷り化、編集委員のレベルアップ、国際的認知度アップに繋がる外国人投稿の積極的働きかけ、IF 獲得などについて、より良い学会誌の作成に向け今後も改善策を検討することとした。

(3) 企画委員会活動状況報告について

資料 2-2-2 に基づき、猪俣理事より、企画委員会・専門研究会の活動状況、総会参加・委任手続きの WEB 化結果について報告された。

今年度の企画事業について、国際対応委や標準化委との合同企画、事業的性格を持った企画・料金設定など検討す

-
- ることとした。除去剤のその後の動きについて次回報告を受ける。
- また、平成22年度会員証の会員配布にとりかかることとした。
- (4) 国際対応委員会活動状況報告について
資料2-2-3に基づき、酒井理事より、IRPA 連絡の会員周知方法、IRPA 憲章の改正案対応、IRPA Admissions committee の検討依頼、AOARP 憲章の改正案対応について報告された。
IRPA 憲章の改正案対応など、IRPA 対応については国際対応委で検討し理事会から発信することを確認した。AOARP 憲章の改正案について、AOARP 会長は AOARP 理事に限定せず AOARP 加盟団体からの推薦方式、AOARP 活動費は AOCRP 収益に依存せず会費徴収方式をコメントすることとした。
- (5) 放射線防護標準化委員会活動状況報告について
資料2-2-4に基づき、鈴木理事より、第9回委員会状況、第5回物品搬出基準作業会の状況について報告された。
- (6) 広報関係について
資料2-2-6に基づき、近江理事より、総会出欠・委任手続き用の Web 運用結果が報告された。
メール&Web 化はコスト・業務簡素化の観点から有効であるが、ML 登録者が2/3程度の現状では基本は葉書とせざるを得ず、法人化の機会に Web への切替、サーバー機能拡充を行うこととした。
- (7) 会計関係について
資料2-2-7に基づき、村山理事より、平成22年度第一四半期の収支状況が報告された。
- (8) 若手研究会活動状況報告について
資料2-2-9に基づき、藤原参与より、OECD/NEA EGIR 東京サテライト会合、原子力学会 ATOMOΣ 投稿、AOC RP-3 ポスター発表、保物学会誌執筆、ICRP ドラフトレポート対応、女性研究者・技術者アンケート結果について報告された。
今後とも学友会・ViC 会との連携強化、更なる活動状況広報(FBNews など)を行うこととした。
- (9) 学友会活動状況報告について
藤原参与より、学友会合宿が計画中であることが報告された。
学友会に若手研究会からも就職情報など積極的に情報提供することとされた。
- (10) 第50回総会結果報告について
資料2-3に基づき、猪俣理事より、第50回総会が滞りなく終了したことが報告された。
- (11) AOCRP-3 結果報告について
資料2-4に基づき、小佐古理事より、AOCRP-3 が滞りなく終了し、研究発表会収入として収支予算どおり入金出来ることが報告された。
- (12) 第44回研究発表会準備状況について
資料2-5に基づき、猪俣理事より、実施組織、開催日及び開催場所、主なスケジュールなどについて報告された。
- (13) 50周年事業準備状況について
資料2-6に基づき、近江理事より、展示コーナーについて報告された。
展示コーナーについては10年毎に節目をつけること、組織・プロジェクトを対象とした歴史構築賞についても検討することとした。
- (14) 法人化 WG 検討状況について
資料2-7に基づき、猪俣理事より、定款案、新事業、事務局体制、説明会の準備状況について報告された。
専門コンサルタントとして国際広報企画と予算範囲内で契約し、収益事業の強化を目指す学会体制図、社会貢献モデルを検討することとした。またこれらの活動案を HP に掲載し、会員からの意見を聴取することとした。
- (15) 名簿作成準備状況について
資料2-8に基づき、猪俣理事より、調査票(案)について報告され、了解された。
- (16) 会費値上げ検討状況について
資料2-9に基づき、村山理事より、会費不足概算額、収入増大策、経費削減策について報告された。引き続き、収入増大策、経費削減策の具体化を検討することとした。
- (17) 平成23年度学会賞選考委員について
資料2-10に基づき、猪俣理事より、委員数、概略スケジュールについて報告され、次回理事会までに委員を推薦することとした。
- (18) 入退会について
資料2-11に基づき、猪俣理事より入退会について報告され、承認された。
また、正学生会員、準学生会員の退会手続き予告が報告された。
入会：(正 会 員) 中山 直人
-

退会：(正 会 員) 小林 羊佐

その他：(会員種別変更) 松尾 陽一郎(準学生→正会員)

(19) その他

次回理事会については、9月22日、10月12日、13日のいずれかとした。(定例理事会は9月22日と史、法人化集中審議の臨時理事会を9月7日に開催することとなった。)

以下メーリング理事会

(20) 「原子力産業セミナー2012」協賛依頼の承認について [メーリング理事会 H22-7]

原子力産業協会より依頼のあった「原子力産業セミナー2012」の協賛依頼について、承認された。(8月6日付)

(21) 入退会の承認について [メーリング理事会 H22-8]

以下の入退会について、承認された。(8月23日付)

入会：(正 会 員) アンダーソン・マーティン

退会：(正 会 員) 高山 裕美, 田中 正人

(原技協 猪俣 一朗)

企画委員会報告

平成22年度 第2回 企画委員会 議事録

1. 日 時： 平成22年7月27日(火) 10:30~15:00
2. 場 所： 原子力研究開発機構システム計算科学センター
3. 出席者： 近江, 飯本, 伴, 林, 南, 山崎, 細田, 中田(幹事)
4. 議 題
 - (1) 平成22年度第1回議事録確認
 - (2) 理事会報告
 - (3) 企画行事について
 - (4) 専門研究会活動報告
 - ・ラドンの防護規準に関する専門研究会
 - ・放射線教育の推進支援に関する専門研究会
 - ・放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会
 - (5) インターネット Gr.報告
 - (6) 広報報告
 - (7) その他
 - 配布資料
 - 2-1 第1回企画委員会 議事録(案)
 - 2-2 平成22年度第2回日本保健物理学会理事会議事録(案)
 - 2-3 保健物理学会シンポジウム「ICRP2007年勧告の検討状況について」
 - 2-3-1 保物シンポジウムの企画状況について
 - 2-3-2 保物セミナー2010について
 - 2-4-1 ラドンの防護規準に関する専門研究会報告
 - 2-4-2 放射線教育の推進支援に関する専門研究会報告
 - 2-4-3 放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会設置依頼
 - 2-5 インターネットグループ(IG)の活動について
 - 2-6 広報関係報告
 - 参考資料
 - 2-1 保物セミナー実行委員会配布資料
 - 2-2 放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会報告書
5. 議 事
 - (1) 第1回企画委員会議事録確認
 - 資料2-1に基づき、前回会合の議事録を確認し、了承された。
 - (2) 理事会報告

資料 2-2 に基づき理事会での議事・報告事項を確認した。

(3) 企画行事について

資料 2-3-1～2-3-2 に基づき、今年度企画行事について検討した。シンポジウムについて、医療放射線リスクでの企画を東京、名古屋で開催することが確認された。なお、開催時期は、名古屋を今年度 1 月に、東京は会場等の状況を確認して決定することとした。資料 2-3-3 に基づき、保物セミナー2010 の企画内容を検討した。今年度も保健物理学会枠があり、企画案及び担当者を今後早々に確定することとした。

(4) 専門研究会活動報告

各専門研究会担当委員から資料 2-4-1～2-4-2 に基づき以下の報告があった。

- ・ ラドンの防護基準に関する専門研究会は、過去のラドン関連の専門研究会のレビュー及び国際機関の最新動向の把握に係る作業を 7 月下旬を目処にまとめることになっており、現在その作業中である。8 月中旬から下旬にかけて第 2 回の全体会合を開催する方向で現在、日程調整を行っている。本会合では、専門研究会のレビューと国際機関の動向をまとめた資料に対する検討、平成 22 年度後半の各委員の役割分担とスケジュールの確認を行う予定である。
- ・ 放射線教育の推進支援に関する専門研究会は、現在の全国の中学校への放射線教育の支援活動の実態把握を進めながら、各地域の活動を支援する方策を探っている段階である。平成 22 年度は、既に 5 月の総会で報告された活動調査の後、中部地域と首都圏のそれぞれの活動の活性化を進める観点から関係者間の意見交換が進められた。
- ・ 放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会は、平成 20 年度～21 年度における活動で一定の成果が得られ、「放射線安全の新しいパラダイム検討専門研究会報告書」が報告された。また、フェーズを変えて継続のための設置依頼が提出された。企画委員会での審議において、本専門研究会は、今後対外的な情報発信とするとの内容のため、情報発信については専門研究会の責任範囲での発信にすべきとの意見があった。また、タイトルについても、フェーズが変わったことが分かる内容とすべきとの意見があり、若干の修正後、理事会に提出することとした。(詳細は Newsletter 各専門委員会報告を参照)。

(5) インターネットグループ報告

資料 2-5 に基づき、報告があった。Newsletter No.59 は、9 月下旬に発行予定とした。

(6) 広報報告について

資料 2-6 に基づき、総会案内のメール配信および総会出欠の WEB 登録について報告があった。インターネット Gr の協力を得て、所定の目的を達成できた。メール&WEB 化によって、会員サービスの向上、コスト及び業務簡素化の観点で有効であるとの報告であった。

(7) その他

次回の会合は、10 月下旬で調整する。

(企画委員会 原子力機構 中田 陽)

編集委員会報告

平成 22 年度 第 2 回 編集委員会 議事録

1. 日 時： 平成 22 年 9 月 1 日(水) 13:20～17:30
 2. 場 所： 電力中央研究所(東京・大手町)第 4 会議室
 3. 出 席： 服部(委員長)、佐々木(幹事)、安岡(担当理事)、横山、中野、三枝、石森、森泉、林(宏)、西浦、吉富(若手)、笠原(事務局)
 4. 議 題
 - (1) 前回議事録の確認
 - (2) 編集委員の作業分担の確認
 - (3) 企画記事提案と J to W 及び巻頭言に係る確認
 - (4) 各パート進捗状況の確認
 - (5) 45-3, 45-4 編集進捗状況の確認、論文審査状況の確認
 - (6) 電子ジャーナル等に係る確認
 - (7) その他
- 配布資料
- 2-1 平成 22 年度第 1 回編集委員会議事録(案)
 - 2-2 編集委員作業分担に関する資料
 - 2-3 資料 2-3 企画記事などの分担表、J to W 及び巻頭言のリスト

- 2-4-1 Aパート進捗状況
- 2-4-2 Bパート進捗状況
- 2-4-3 Cパート進捗状況
- 2-5 45-3, 45-4号編集状況
- 2-6 電子ジャーナル等に関する資料

参考資料

- 2-1 H22年度編集委員名簿及び歴代編集委員
- 2-2 覚書
- 2-3 その他検討事項に関する資料

5. 議 事

- (1) 前回議事録の確認
平成22年度第1回編集委員会の議事録(案)が承認された。
- (2) 編集委員の作業分担の確認
依頼記事の企画、校正と編集後記、及びJ-STAGEに関する分担について確認した。45-3号のJ to Wは、JAEA関連研究の紹介を掲載することとなった。
- (3) 企画記事提案とJ to W及び巻頭言に係る確認
企画記事の提案について現状と今後の予定を確認した。本学会が来年50周年記念となることから、46-1号の巻頭言については、研究発表会の実行委員会にも意見を伺った上で調整をはかることとした。またRadiation Protection in the Worldについては、記事が重複する可能性が低いことから、編集委員への周知は省略することとした。
- (4) 各パート進捗状況
45-3号以降の企画記事の進行状況が各パート幹事より報告された。査読結果の最終通知について担当委員に情報が伝わるように審査フローを変更することとした。
- (5) 45-3, 45-4編集進捗状況の確認, 論文審査状況
編集事務局より、同号の編集状況、論文審査状況について報告され、確認した。
- (6) 電子ジャーナル等に係る対応
J-STAGEについて、記事のチェック方法について議論した。仮アップロード後の最終確認を担当編集委員が実施する際に、確認の品質を担保するため、チェックポイントをまとめた表を作成し、要点を整理した上で確認を行なっていくこととした。なお、44-1号は9月下旬に公開される予定である。また、他のサイトなどでの公開については、引き続き議論することとした。
- (7) その他
印刷費用削減可能性について議論した。電子ジャーナル(J-STAGE)化による削減可能性は、情報のページ及び広告等が掲載されないことから、減収や会員へのサービス低下などについても考慮し、今後も議論していくこととした。また、NEWS LETTERとの住み分け、段組の変更等について議論した。それぞれの変更によるメリット・デメリットをさらに明確化し、引き続き整理することとした。
 今回の会合は、平成22年11月29日(月)13時30分から、東京・大手町で開催されることとなった。
 (編集委員会幹事 電中研 佐々木 道也)

国際対応委員会報告

活動報告

1. ICRP 関連
 - (1) ICRP 報告書ドラフト「ラドンおよび子孫核種による肺がんリスク」がパブリックコメントに供されている旨、ホームページおよびメーリングリストにて発信した。
 - (2) 企画委員会に協力し、日本保健物理学会討論会「ICRP レポート"Lung cancer risk from radon and progeny"を考える」を9月25日に開催することとした。
 - (3) 同討論会の結果を踏まえて学会としてのコメントを作成する予定である。
2. アジアオセアニア放射線防護学会(AOARP)対応
 AOARP憲章の改訂にあたり、AOARP事務局より会長はAOARP理事会構成員の互選によるとの提案がなされた。これに対し、保健物理学会から会長は理事会構成員に限らず、広く加盟学会の推薦者から選任する旨の明文化を含めた改訂を提案し、これが認められた。加盟国の承認を得た上で施行される予定である。

3. 韓国放射線防護学会(KARP)年会への会員の派遣

- (1) KARP より 11 月 24 日~26 日にかけて済州島にて開催される KARP 秋季年会に合わせ、Radiation Protection Safety Culture(放射線防護の安全文化)に関するワークショップ(24 日)および Radiation Source Security に関するシンポジウム(25 日)を開催する旨連絡があり、それぞれ専門家 1 名の派遣を要請された。
- (2) Safety Culture ワークショップに関し、JHPS 理事会および「放射線のリスクコミュニケーション検討専門委員会」(2007-2008) 篠原邦彦主査に意見を募り検討した結果、服部隆利会員を派遣することとし、理事会にて承認された。
- (3) Radiation Source Security シンポジウムに関し、JHPS 理事会に意見を募り検討した結果、小佐古敏荘会員を派遣することとし、理事会にて承認された。

(放医研 酒井 一夫)

放射線防護標準化委員会

第 30 回幹事会

1. 日 時： 平成 22 年 8 月 27 日(月) 13:00~15:40
2. 場 所： 東京大学弥生キャンパス原子力別館 3F 会議室
3. 出席者： 小佐古(委員長), 金子, 杉浦(副委員長), 飯本, 服部, 鈴木, 山本(幹事)
4. 議事概要
 - (1) 幹事の役割分担
幹事の役割分担を以下のように決めた。
幹事長：飯本, 事務：鈴木, 調査企画：服部, 広報渉外：近江, 総務人事：山本
 - (2) 重要な概念解説書について
 - ・ 解説書として販売するには、まだ不十分なところがあるので、まずは仮綴じ本を作成し、標準化委員会委員や関係者に配布し、内容を精査していただく。
 - ・ 解説書の体裁は、日本原子力学会の標準や標準の作成手引書を参考にする。
 - ・ 標準の出版物価格は、製作予算額を回収できる程度の単価をベースに設定することも一案である。ISBN の取得についても検討する。
 - (3) 表面汚染作業会進捗状況について
 - ・ 「表面汚染測定を用いたクリアランスの判断方法」の標準案並びにその解説書の作成が作業会で終了した。
 - ・ 日本原子力学会でウランクリアランスに関する標準の制定作業が進められており、動向を注視し、その標準とトーンを合わせる必要がある。
 - (4) 廃棄物作業会進捗状況について
作業会の進め方について、次の議論がなされた。
 - ・ 山本委員, 小佐古委員長, 服部幹事, 木村英雄氏(JAEA)の4名で作業会の進め方に関するたたき台を作る。
 - ・ 第1段階として、現状を整理する。
 - ・ 第2段階として、サイト解放基準など周辺事項を含めた標準化を検討する。
 - (5) 標準化長期ロードマップについて
以下の事項が検討され、分担を以下の通りとした。
 - ・ 「職業人と公衆の安全」 金子・杉浦両副委員長, 鈴木幹事。
 - ・ 「一般環境の安全・安心」 小佐古委員長, 山本副委員長+外部の適任者。
 - ・ 「線源」 ニツ川委員を中心に。
 - ・ 「施設ごとのガイドライン」該当組織の中から適任者を選任。以上の活動を推進するため、早急に専門部会を設置することを決めた。
 - (6) 平成 22 年度事業計画について
表面汚染測定を用いたクリアランスの判断方法の標準の制定に向けての審議。廃棄物作業会の活動。重要な概念の解説書の仮綴じ本の作成を当面の課題とすることにした。
 - (7) 新委員の選任及び文部科学省原子力安全課放射線規制室関係者の標準化委員会常時参加について
 - ・ 原子力安全技術センターから推薦された候補者を確認し、選任手続きを開始する。また、保安院については、長期的な視野から参加の可能性を検討していく。
 - ・ 文部科学省原子力安全課放射線規制室関係者の標準化委員会常時参加の申し入れがあった。標準化委員会にメールにて参加の可否を投票により決定する。

若手研究会

活動報告

1. 活動実績及び活動計画

若手研究会(以下、若手研)の主査と幹事が新体制となり、2回目のNEWSLETTERを執筆することとなりました。夏季は関連のイベントも多く、可能な限り若手研としてアピールの場を作ってきました。最近の主な活動として、平成22年7月からの若手研の暑い夏を報告します。

(1) 活動実績(平成22年7月以降)

- (7/9) 主査・幹事打合せ
- (7/9) 第2回理事会への参画
- (8/2-4) 平成22年度第22回放射線夏の学校への参加
- (8/27-28) 科学技術カフェ2010への参加
- (9/22) 第3回主査・幹事会、第3回理事会への参画

(2) 活動計画

- (10/22) 第8回若手勉強会(東海)「テーマ:内部被ばく」
 - (10月) 第9回若手勉強会(東京)「テーマ:環境安全」(予定)、第4回主査・幹事会合(京都)
 - (11月) FBNews投稿(11月25日締切り)
 - (12/1-3) 日本放射線安全管理学会若手セッションへの参加+ポスター発表
 - (12月) 平成22年度若手セミナー、第4回学生発表会における若手研セッション
- 平成23年
- (1月) 第5回主査・幹事会合(東海)
 - (3月) 第10回若手勉強会(東京)「テーマ:生物影響と放射線防護」

2. 活動内容

(1) 「平成22年度第22回放射線夏の学校・第17回夏季セミナー」への参加

8月2日~4日に茨城県の「いこいの村潤沼」で行われた「平成22年度第22回放射線夏の学校・第17回夏季セミナー」において、「日本保健物理学会若手研究会からの提言~ICRP2007年勧告の国内法令取り入れ~」のタイトルで若手研幹事の河野がポスター発表を行った。本発表は大学生だけでなく、若手技術者、研究者にもその内容及び若手研の活動内容にも興味をもってもらうことができ、好評であった。

(2) 「科学技術カフェ2010」への参加

8月27、28日の2日間にかけて、千葉県千葉市「QiBall」で開催された「科学技術カフェ2010」で、若手研のブースを開設した。①身体の除染訓練、②サーベイメータによる放射線計測、③放射線クイズ、の構成とし、実験やクイズを通して保健物理に関する業務、そして若手研の活動を紹介した。出展者は、河野、外間、山外(若手研)、嶋田、谷、藤通、山外(学友会)の6名。若手研のブースは大盛況であった。



写真1 「科学技術カフェ2010」にて

(3) ICRPドラフトレポートに対する若手コメント募集

ICRPは、レポート"Lung cancer risk from radon and progeny"のドラフトを公開し、意見公募を開始した。これを受け、日本保健物理学会国際対応委員会は、9月25日の日本保健物理学会討論会も考慮に入れ、学会内の検討を行

っており、若手研究会としても、若手研員からの意見を募集した。

(4) 保健物理 45-3「若手研のページ」執筆

保健物理 45-3 号「若手研のページ」に、新規に今年度着任した各委員会の若手委員の挨拶を記載した。また、AO CRP-3 若手研究会印象記、AOCRP-3 学友会奮闘記を掲載した。また、原子力 PR 館放浪記では、「東北電力女川原子力 PR センター」の記事を掲載した。

3. 会員の募集

若手研究会では会員を随時募集しております。現在の会員は 44 名(平成 22 年 7 月 1 日)です。35 歳以下の学会員であれば、どなたでも入会資格がありますので、主査・幹事まで(E-mail: jhps.wakate@gmail.com)お気軽にご連絡下さい。

(東京大 小池 裕也)

学友会

活動報告

現在、学友会では勉強合宿を企画しています。日程は 9 月 29, 30 日にかけて、場所は岐阜県中津川市にあります国立大共同中津川研修センターです。

内容として、「大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 核融合科学研究所」の見学、医療放射線リスクに関する勉強会、参加者の研究室紹介、学友会のこれからのためのフランクな討論やスポーツイベントを企画しています。

医療放射線リスクに関する勉強会では、首都大学東京の福土政広先生、明山上温先生、また藤田保健衛生大学の鈴木昇一先生をお招きし、それぞれ核医学分野、放射線治療分野、診断分野について、放射線の安全・防護の観点も含めて講義していただきます。

学生は名古屋大学、東京大学、神戸大学、近畿大学、藤田保健衛生大学(参加人数順)などから総勢 20 名ほど参加する予定です。学友会の親睦を深め、同時に知識も深めていきたいと思っております。

(東京大 藤通 有希)

専門研究会報告

ラドンの防護基準に関する専門研究会

8 月 26 日に東京大学工学部において第 2 回全体会合を開催した。この会合には 11 名の委員が参加した。ラドンに関する過去の専門研究会のレビューと国際機関の動向調査に関しては 8 月上旬までに各委員にメールで配信した。全体会合では、これらのレビューについて議論を行い、9 月以降の各委員の役割分担について意見交換を行った。また、9 月 25 日に開催予定の保健物理学会討論会「ICRP レポート“Lung cancer risk from radon and progeny”を考える」への協力依頼を行った。今後は、メールを中心とした意見交換により報告書の作成を行う事になった。

(放医研 細田 正洋)

学会掲示板

日本保健物理学会討論会「ICRP レポート “Lung cancer risk from radon and progeny” を考える」に参加して

国際放射線防護委員会(ICRP)は、ICRP レポートのドラフト “Lung cancer risk from radon and progeny” を Web 上に公開し、9 月末までの予定で、広く関係者からの意見を募集しました。これを受けて、平成 22 年 9 月 25 日、東京大学工学部 11 号館講堂において、企画委員会、国際対応委員会、ラドンの防護基準に関する専門研究会の合同の企画として、標記討論会が行われました。当日は台風接近にも関わらず、40 名あまりが参加し、活発な討論が行われました。前半の基調講演は、酒井一夫氏を座長として、ドラフトの解説、WHO 等の国際的な動向、ドラフトに対して学会員から国際対応委員会に寄せられたコメントの紹介が行われました。後半のパネル討論では、飯田孝夫氏を座長として、リスク評価、ドシメトリー、規制等への適用の観点から、それぞれパネリストによる講演が行われた後、総合討論が行われました。

基調講演では、大分県立看護科学大学の甲斐倫明氏から、ICRP が 1993 年に刊行した Publication 65、2009 年に発表されたラドン声明、ドラフトの概要および問題点等が紹介されました。この中で、ICRP は原爆生存者の線量とがんリスクとの関係を利用した疫学的評価法を採用し、被ばく時年齢や経過年数を考慮した相対リスクモデルを用いた結果、損害調整名目リスク係数が $5 \times 10^{-4} \text{ WLM}^{-1}$ となり、Publication 65 と比べ 2 倍程度高くなったことが紹介されました。

また、損害調整名目リスク係数は、ラドンの肺がんリスクに影響するとされている喫煙を年齢や性別と同じ扱いにして算出されており、今後、喫煙とラドンの共同影響について慎重に議論していく必要があることが指摘されました。放射線医学総合研究所の米原英典氏からは、ICRPのラドンに関するレポートについて、ラドンの防護基準が大きく変更された背景とともに、その契機となったWHOの国際ラドンプロジェクト(IRP)について説明が行われました。また、IRPの結論を取り入れたラドンハンドブックにおいて、屋内ラドンの被ばくの参考レベルとして 100 Bq m^{-3} が提案されていることが紹介され、WHOがこのレベルを超えた場合には、改善対策の推奨もしくは要求する方針を示したことが説明されました。電力中央研究所の伊知地猛氏からは、国際対応委員会で集約した意見を、線量、疫学、喫煙、トロン、肺がん以外のリスク、用語、編集上のコメントの7項目に分類し、それぞれの意見と、それらに対する議論として整理した結果が紹介されました。意見が多く寄せられた、従来の疫学的アプローチから呼吸気道モデルに基づく線量計測学的アプローチへの変更について、喫煙の影響を無視したリスク評価、呼吸気道モデルの不確かさなど、新アプローチの抱える問題点などが紹介されました。

後半のパネルディスカッションでは、リスク評価の観点として、鹿児島大学の秋葉澄伯氏からレポートの根拠となっている疫学的データについて、ラドン濃度測定におけるトロン混入の影響の問題や、具体的にいくつかの都市でみられたラドン濃度と肺がんリスクの逆相関の結果などの問題点が指摘され、ラドンの肺がんリスクについては、慎重に議論を進めるべきとの見解が示されました。日本原子力機構の石森有氏からは、肺がんリスク評価の疫学的アプローチと線量計測学的アプローチの説明が行われた後、線量計測学的アプローチについて、トロン混入などによるラドン濃度測定の不確かさ、エアロゾルの沈着部位や沈着量などに依存する実効線量換算の不確かさ、滞在時間を年間7000時間とする線量評価の妥当性が指摘され、疫学調査結果との整合について論じることのできる十分な線量計測学的評価データを先に揃えるべきとの提案がなされました。東京大学の飯本武志氏からは、WHO、ICRP、IAEAの各機関が提示しているラドンに関する防護基準を比較し、検討すべき項目として、各機関が参考レベルを掲示するに至った過程、日本における環境ラドンの防護基準の要否、ラドンの防護基準を導入するにあたっての準備事項等を挙げられました。

総合討論ではICRPレポートについて「プール解析結果の妥当性」、「喫煙影響の扱い方」、「トロンの扱い方」の3項目について主に討論が行われ、それぞれの特性を念頭においた肺がんリスクの検討と、合理的な制度設計が重要との意見が出されました。また、国際対応委員会からは本討論会の議論を踏まえて、総合的、共通的な事項について、学会としてコメントを集約し、9月末にICRPへその意見を提出するとの報告がされました。

本討論会では、ラドンの肺がんリスクに対する喫煙影響の扱い方に注目が集まりました。喫煙がラドンの肺がんリスクを相乗的に高めることが知られてはいるものの、その影響の程度についてはまだ不明な点が多く、専門家の間でも意見が分かれています。喫煙による放射線リスクへの影響については、放射線管理や作業場所、住居環境等の安全を考える上で多角的な検討が必要であり、今後の動向を注視していくべきと感じました。

討論会終了後、金子正人日本保健物理学会長から、法人化への取り組み状況について「法人化の必要性」、「一般社団法人への移行」、「学会名称」、「学会誌名」の4つの項目を挙げ、説明が行われました。



写真1 基調講演風景



写真2 総合討論風景

(原子力機構 外間 智規)

インターネットグループの活動

インターネットグループ(IG)は、保健物理学会企画委員会の傘下で、(1)学会ホームページの管理、(2)学会メーリングリストの管理、(3)ニュースレターの発行に関する活動を行っています。

現在、活動しているメンバーは次のとおりです。

- ・メーリングリスト管理(主査兼務)：山崎 直(原子力機構)

-
-
- ・ ホームページ保守： 中野 政尚・吉富 寛・中川 貴博・大倉 毅史(原子力機構)
 - ・ ニュースレター編集： 鈴木 敦雄(静岡県), 平尾 茂一(名古屋大)

IG 活動へ興味を持たれた方(協力していただける方), 学会ホームページ等活動内容への改善案をお持ちの方は, 気軽に学会公式アドレス(jhps@wwwsoc.nii.ac.jp)へメールしてください。

メーリングリストへのアドレス登録のお願い

日本保健物理学会では学会員の皆様への情報提供を目的として, メーリングリストを運用しております。メーリングリストでは, 研究発表会やシンポジウムの開催案内・専門研究会活動・人事公募・ニュースレター発行案内などの情報が, 月 10 件程度メールで配信されています。配信を希望される方は, 保物事務局(jhps@iva.jp)まで配信先アドレスを連絡願います。

(IG 主査 山崎 直)

保健物理学会 会員の皆様へのお知らせ

1. 「会員名簿の作成にあたって調査票記入のお願い」発送のご連絡

「日本保健物理学会 会員名簿の作成にあたって調査票記入のお願い」という郵送物を発送させていただきました。これは, 今年予定しております会員名簿の作成にあたって, また会員の現況把握にあたって, 大変重要となります。是非内容を確認いただき, 返信(同封の返信封筒, 或いはFAX, E-mail)いただきますよう, お願いいたします。なお, 調査票の「貴方の登録情報」については, 調査票作成の都合から, 至近の住所変更等が反映されていない場合があります。該当された方はお手数ですが, 本調査票にても「登録情報の変更」をお願いいたします。

また, 1 週間程度経過しても, お手元に調査票が届かない場合には, 下記学会事務局にご連絡をお願いいたします。

2. 会費納入のお願い

メールや書面等で会費納入のお願いをさせて頂いておりますが, まだ2010年度分の会費を未納の方がいらっしゃいます。事務局にて会費の入金状況を確認できますので, 入金状況等を確認希望の方は事務局までメールまたは電話にてご連絡をお願い致します。

連絡先：日本保健物理学会事務局

柘植

〒104-0031 東京都中央区京橋 2-2-11

文献堂ビル 3F

TEL:03-3548-0342 FAX:03-3548-0344

E-mail: jhps@iva.jp

発行：日本保健物理学会企画委員会

編集：企画委員会インターネットグループ

担当：鈴木 敦雄(静岡県), 平尾 茂一(名古屋大)